

令和８年度 全国学力・学習状況調査報告（浅間台小学校の結果より）

令和８年４月に、小学６年生、中学３年生を対象に実施された全国学力・学習状況調査の結果が返却されました。本校の結果と考察を次のようにまとめました。

（１）教科学習状況調査結果

○平均正答率

【国語】

		知識及び技能			思考力、判断力、表現力等		
	全体	言葉の特徴や使い方	情報の扱い方	我が国の言語文化	話すこと・聞くこと	書くこと	読むこと
浅間台小学校	66	71, 0	60, 2		68, 2	48, 9	72, 7
全国	60, 9	66, 8	52, 3		65, 8	45, 7	65, 9

【算数】

	全体	数と計算	図形	測定	変化と関係	データの活用
浅間台小学校	63	69, 9	64, 8	84, 1	48, 5	54, 0
全国	56, 4	61, 1	55, 3	78, 1	41, 1	48, 6

○結果から見られる本校児童の学力

	向上してきている力	伸ばしていきたい力
国語	・全体として、基礎的・基本的な知識及び技能の定着に加え、思考力・判断力・表現力についても良好な結果が見られた。 ・語句や表現に関する知識の定着に加え、目的に応じて情報を整理・活用する力が身に付いていることがうかがえる。 ・文章の内容や筆者の意図を読み取り、複数の情報を関連付けながら考える力に強みが見られる。	・「書くこと」は全国平均を上回っているものの、他の領域と比較すると正答率が低い。今後は、自分の考えを根拠とともに整理して文章で表現する活動や、目的や相手を意識して文章を書く学習を一層充実させることで、表現力の向上を図っていきたい。
算数	・全ての領域で全国平均を上回り、基礎的な知識・技能が着実に定着していることがうかがえる。 ・特に数量の関係を理解し、適切に計算する力。図形の性質や構成要素について理解し、それらを活用して考察する力が育成されていると考えられる。	・数量の変化の特徴を捉えたり、関係性を数理的に説明したりする力や、資料やグラフから必要な情報を読み取り、根拠を基に判断する力に関しては身に付いているが、継続的な取組が必要である。

（２）質問紙調査結果

児童質問調査の結果から、本校児童は主体的に学習に取り組み、多様な考えに触れながら学びを深めようとする意識が高いことがうかがえる。

「自分と違う意見について考えるのは楽しいと思いますか」では、「あてはまる」と回答した児童が53.5%で、全国平均（31.9%）を21.6ポイント上回った。また、「授業で学んだことを、次の学習や実生活に結び付けて考えたり、生かしたりすることができると思いますか」では46.5%と、全国平均（35.0%）を11.5ポイント上回っている。児童が学習内容を単なる知識として捉えるだけでなく、他者との対話や実生活との関連を意識しながら学んでいる様子がうかがえる。

さらに、「各教科などで学んだことを生かしながら、自分の考えをまとめる活動を行っていましたか」では

79.2%（全国 73.4%）、「算数の授業で学習したことを普段の生活の中で活用できましたか」では 93.0%（全国 83.2%）となった。各教科で学んだ知識や技能を活用する学習経験が充実しており、これらの取組が国語・算数ともに全国平均を上回る結果につながったものと考えられる。

「授業や学校生活では、友達や周りの人の考えを大切に、お互いに協力しながら課題の解決に取り組んでいますか」では 39.5%であり、全国平均（52.7%）を下回った。異なる意見に関心をもつ児童は多いものの、実際に協働しながら課題解決に取り組むことについては伸びしろが見られる。今後は、話し合い活動や協働的な学習の充実を通して、互いの考えを生かしながらよりよい解決策を導く力を育成していくことが求められる。

読書については、「1日1時間以上読書をする」と回答した児童は 11.6%で、全国平均（11.9%）とほぼ同程度であった。国語の学力は全国平均を上回っているものの、豊かな言語活動や語彙力の向上につなげるため、継続的な読書習慣の形成をさらに推進していきたい。

ICT 機器の活用については、「ほぼ毎日使用した」と回答した児童が 34.9%で、全国平均（43.0%）を下回った。しかしながら、国語・算数ともに全国平均を上回る結果となっていることから、ICT 活用と対話的な学習活動、基礎的な学習活動を効果的に組み合わせながら学習を進めてきた成果が表れていると考えられる。今後は、情報活用能力や表現力の育成に向けて、ICT の効果的な活用場面をさらに充実させていきたい。

教科に対する意識では、「国語の勉強は得意ですか」の質問に「あてはまる」と回答した児童は 14.0%で、全国平均（21.6%）を下回った。一方で、国語の学力は全国平均を上回っており、「国語の授業で文章などを引用して自分の考えが伝わるように書き方を工夫していた」と回答した児童も 88.4%（全国 80.7%）と高い数値を示している。このことから、児童は高い学力を身に付けている一方で、自身の学習成果に対して慎重に評価する傾向が見られる。

一方、「英語の勉強は得意ですか」では 51.2%で全国平均（59.8%）を下回った。今後は、外国語活動や外国語科において、成功体験を積み重ねながら学習への自信を高めていく取組が必要である。

（3）考察

本校は、国語 66.0%、算数 63.0%といずれも全国平均を上回り、全ての領域において全国平均以上の結果を収めた。特に国語の「読むこと」、算数の「数と計算」「図形」「測定」において高い成果が見られ、基礎的・基本的な知識及び技能が着実に定着していることが確認できた。

一方で、国語の「書くこと」や算数の「変化と関係」では、校内の他領域と比較して正答率が低かった。また、「協力しながら課題解決に取り組むこと」や「英語への得意意識」においては全国平均を下回る結果が見られた。

また、児童質問調査からは、家庭学習への高い意欲や、自分と異なる意見を前向きに受け止めようとする姿勢、学習内容を実生活に生かそうとする意識の高さが見られた。さらに、自分の考えをまとめる活動や、学習した内容を活用する活動への肯定的な回答も全国平均を上回っており、これらの学習経験が学力の向上を支えているものと考えられる。

今後は、児童一人ひとりが根拠を基に考えを表現する活動を充実させるとともに、対話を通して互いの考えを深め合う協働的な学びをさらに推進していく。また、ICT を効果的に活用しながら、学習した内容を次の学習や実生活へと結び付ける授業づくりを進め、主体的・対話的で深い学びの実現を目指していく。